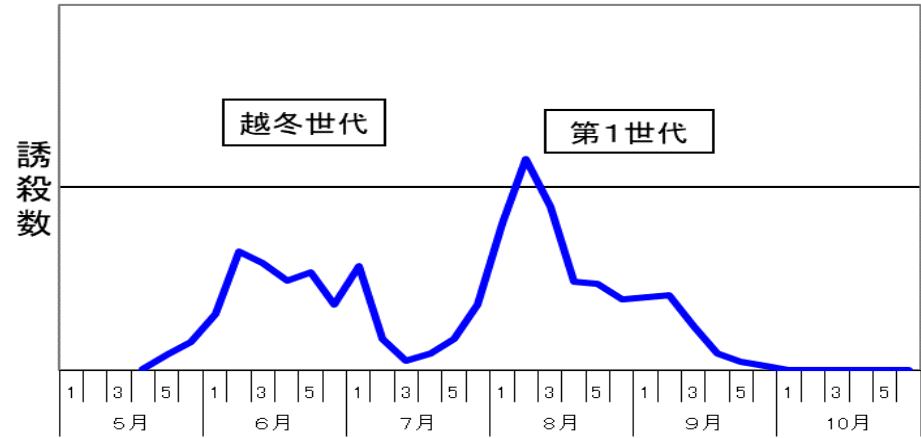


モモシンクイガのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

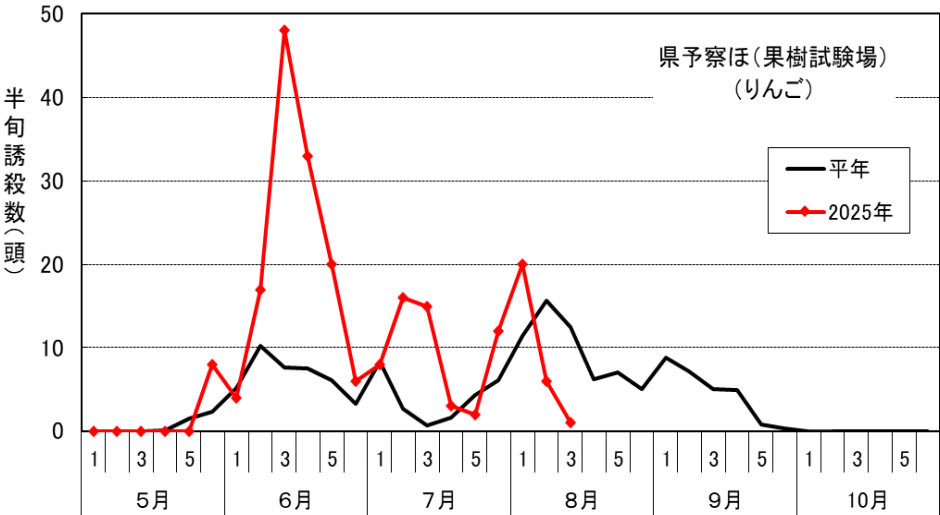
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 試験場予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・標高 600m以下の平地では年2回が大半である。
- ・準高冷地及び日照の少ない山沿いでは年2回発生が主体で、1回発生が混在する。
- ・越冬世代成虫は6月上旬から始まり、7月に入ると盛んになり、8月上旬まで続く。産卵は7月になると急増し、産卵最盛期は7月中下旬で、大半はがくあ部に産みつけられる。
- ・第1世代成虫は8月上旬から発生し、発生最盛期は8月中～下旬である。産卵最盛期は、成虫の発生期とあまり変わらない。
- ・防除はふ化幼虫の食入防止を中心とする。6月下旬から概ね2週間間隔で9月上旬まで防除する。特に7月中下旬と8月中下旬は重要な防除適期である。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



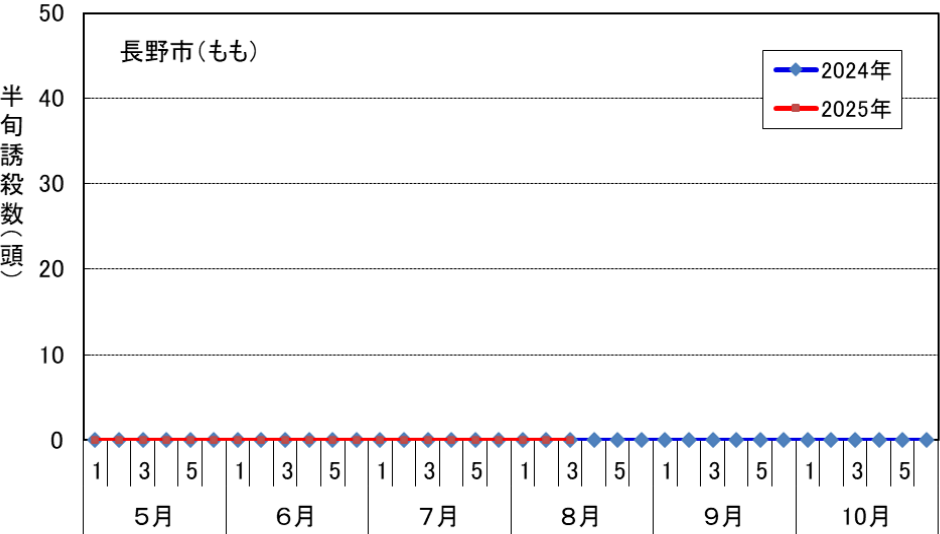
【調査地点】（標高約 350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・第1世代成虫のピークが平年よりやや早い8月の初旬にあった。
- ・通常はある程度見られるピーク後の誘殺が、本年は少なく、8月第3半旬には、ほぼ誘殺されないところまで減少している。

○長野市・須坂市（病虫害防除部）

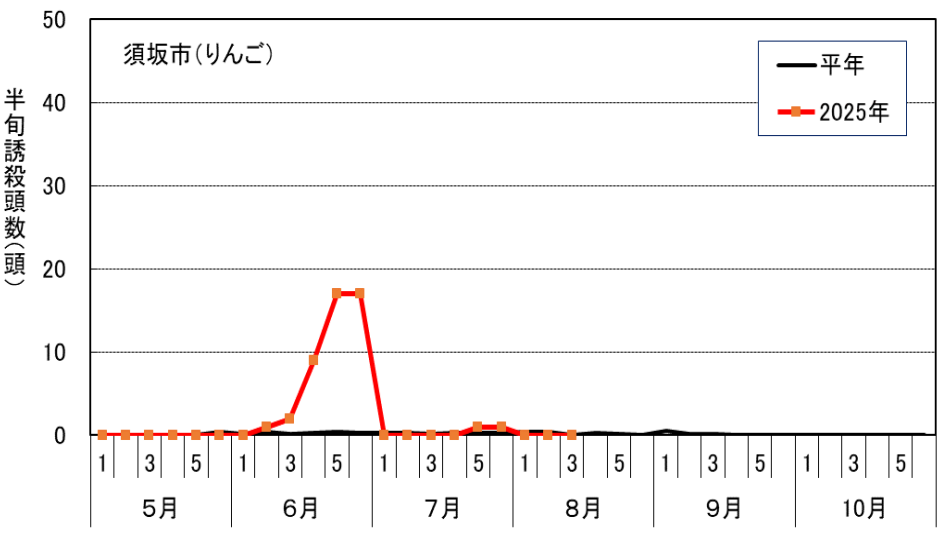


【調査地点】（標高約 370m）

- ・長野市（ももほ場）
- ・2024年からほ場変更したため、平年値なし。

【コメント】

- ・他の設置場所ではみられるモモシンクイガも、ここは8月第3半旬時点でも誘殺が観測されていない。



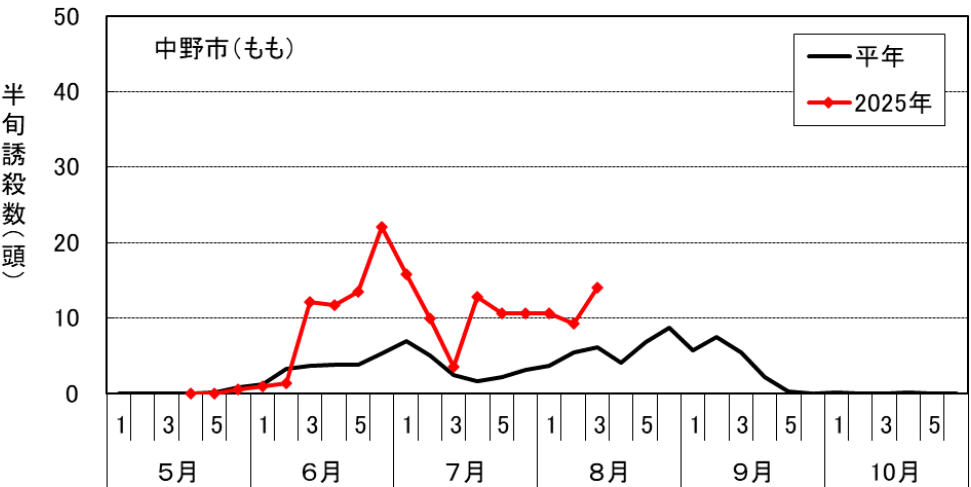
【調査地点】（標高約 370m）

- ・須坂市（りんごほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・6月中旬からの越冬世代成虫の誘殺数がこの10年で最大であったが、その誘殺が終息した後はほとんど誘殺されず、7月下旬から誘殺が増えることが多い第1世代成虫の誘殺も、8月第3半旬時点ではほとんど観測されていない。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 370m）

- ・中野市（ももほ場）
- ・2025年は5月中旬に設置

【コメント】

- ・越冬盛大成虫の誘殺が7月3半旬頃に終了した後、すぐに第1世代成虫の誘殺が始まり、他の地点より早い第1世代成虫の誘殺開始となっている
- ・第1世代成虫の誘殺数は、平年値より高い、半旬で10頭前後のまま1か月近く高止まって推移し、第3半旬で再び増加の兆しがみられる。